

【死生観に関する調査】

“成熟”が感じられない高齢者。中年世代と大差ない姿勢、価値観。
高齢期の幸福度向上に向け、次世代への啓蒙活動が必要

高齢期のライフスタイルの充実について調査・研究・提言する、特定非営利活動法人「老いの工学研究所」（大阪府中央区、理事長：西澤一二、<http://oikohken.or.jp/>）は、当研究所のモニター会員約12,000名に対して「死生観に関するアンケート調査」を行い、45歳～91歳まで576名から回答を得ましたので、その結果についてお知らせ致します。

1. 死に向き合わない高齢者

表1のように、死に対する考え方や姿勢に年代による顕著な差は見られませんでした。「1.死後の世界はある」「2.命より大切なものがある」「3.死について真剣に考えるきっかけがあった」の3項目については、年代が上がるほど減少。信仰心も中年世代と大差ない結果となりました。「死に対する恐れがない」とした割合も75歳以上で64%に過ぎず、3人に1人が死への恐れを持っていることとなります。これらから、高齢者が死としっかり向き合っている様子は伺えません。

<表1：死に対する考え方、姿勢について>

		45歳～	55歳～	65歳～	75歳～	
1	死後の世界はあると考えている	53%	34%	32%	26%	減少傾向
2	命より大切なものがあると思っている	53%	36%	39%	40%	減少傾向
3	死について、真剣に考えるきっかけがあった	73%	73%	66%	54%	減少傾向
4	信仰が、死に対する態度の基礎になっている	27%	25%	29%	33%	
5	自分が死ぬことに対して、恐れはない	42%	58%	56%	64%	
6	自分の死を、しっかり意識している	63%	70%	72%	64%	
7	自分の死後について、子らに話をしている	27%	37%	33%	42%	

死を受け入れるとすればどのようなときだと想像しますか、という質問に対して、「1.医師に治療できないと判断されたとき」「2.経済的に困窮したとき」「3.生前整理が完了したとき」で、年代が上がるほど増加しましたが、他の項目では年代による差は見られませんでした。

高齢になるほど、健康面や経済的な面での限界が死を意識させるようになる一方で、生きがい、交流、貢献といった人生の充実度に関係することについては、世代による大きな差は見られませんでした。

<表2：死を受け入れるのは、どのような時か>

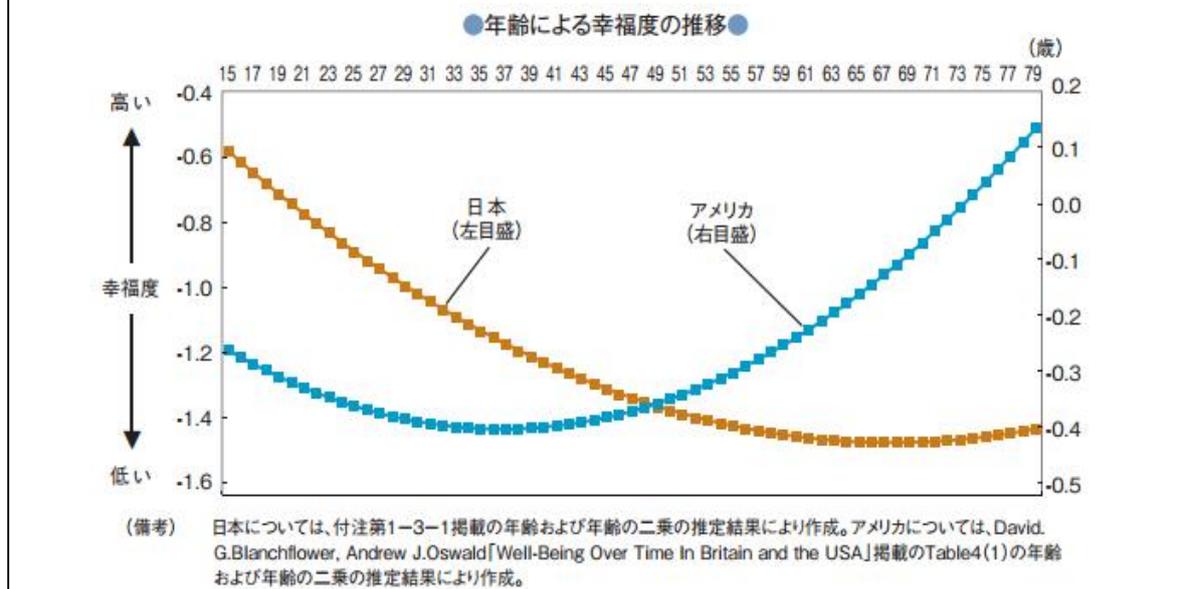
		45歳～	55歳～	65歳～	75歳～
1	医師に、治療できないと判断されたとき	43%	71%	73%	78%
2	経済的に困窮したとき	44%	43%	57%	56%
3	生前整理が完了したとき	21%	20%	26%	28%
4	認識、判断、思考する力がなくなったとき	85%	92%	88%	85%
5	周囲に面倒や迷惑をかけるようになったとき	76%	77%	83%	81%
6	生きがいがなくなったとき	52%	61%	64%	64%
7	他人との交流がなくなったとき	30%	26%	29%	28%
8	人の役に立てなくなったとき	42%	37%	32%	46%

2. 高齢者の幸福度が高まらない理由

「老年的超越理論」(トルンスタム)では高齢期の成熟と心理的発達を指摘しており、これが諸外国において高齢期に幸福度が高まる理由の一つとされていますが、以下のように日本においては、高齢期に幸福度が高まるわけではないという調査結果があります。

●内閣府「平成 20 年版国民生活白書」より

これまでの諸外国における調査では、年齢と幸福の間にはU字型の関係があるとの結果が出ているものが多い。つまり、若者と高齢者は熟年層よりも幸福だということである。その理由としては、熟年層に入る頃には、自分の人生がある程度定まってくるので、人々は若い頃持っていた野心を実現することをあきらめざるを得ないから幸福度が下がる。その後的高齢期に入ってから考え方を換え、後半の人生を楽しく充実させようと努力するから幸福度がまた高まるのではないかとの考察がなされている。しかし、今回の推計ではU字型にはなっておらず、67歳を底にして79歳にかけて幸福度はほとんど高まらないL字に近い形状を取っており、アメリカの結果と比べても我が国は特異と言える。



「老年的超越理論」に照らせば、日本において高齢期に幸福度が高まらない状況は、今回の調査からうかがえた、高齢者が高齢期に相応しい成熟をしていない(考え方、価値観が中年世代と変わらない)ことに原因があるのかもしれませんが。

活力ある超高齢社会を築くには、身体的に衰えても、幸福度を高められるような高齢者が増加することが望ましく、そのためには50歳代、40歳代のうちから人間の成熟について考える機会を持つことが重要であると考えられます。

【調査概要】

- ・ 調査期間：2015年2月6日～3月31日
- ・ 調査方法：郵送、インターネット
- ・ 回答者

	男	女	計
45歳～	69	55	124
55歳～	36	63	99
65歳～	70	103	173
75歳～	82	98	180
計	257	319	576

＜お問い合わせ先＞

特定非営利活動法人「老いの工学研究所」
 研究員 川口 雅裕
 大阪市中央区伏見町四丁目2番14号
 06-6223-0001
 info@oikohken.or.jp